

気仙沼普及センターだより

宮城県気仙沼農業改良普及センター

〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢47-6

TEL : 0226-25-8068 FAX : 0226-22-1606

Vol: 148

令和3年5月20日発行

ひとつずつ 明日と未来の ふるさとへ!



春ねぎの収穫作業 (南三陸町)



生産者と関係機関によるいちご現地巡回 (気仙沼市)



最盛期を迎えた田植作業 (南三陸町)



輪ぎくの機械定植 (南三陸町)

多彩で活力ある農業を展開中さらに!

所長 佐藤 浩也

横浜港に寄港した大型客船の映像をテレビで見ている昨年二月。この頃を境に私たちの生活や仕事は一変。新型コロナウイルス感染症の感染拡大で、なおも制限ある行動が求められており、歴史的緊急事態とも表現されています。この影響は肉牛や花き部門をはじめ、広く農業分野にも及び、米を巡っては、人口減少に加え、業務用需要が減ったことで、本県の水田農業の方向性をも変える要因になっています。コロナ禍が長引けば、今後何かしらの影響が及ぶものと想定した上で、状況変化に柔軟に対応できる備えが必要だと今更に痛感しているところです。普及センターでは、農業経営の相談や各種支援制度を御案内する相談窓口を設置していますので、お気軽に御相談ください。

さて、当管内では南三陸米をはじめ、輪ぎくやいちご、春告げやさい等が生産されるほか、直売所販売、農泊、この地に移住しての自家産果樹や鶏卵等を用いた加工品製造など、6次産業化や交流型の農業が展開されています。農業は食をつなぐ生命産業であると同時に、食を通じて人を呼び込み、人の心を豊かにする見えないチカラがあると思います。

三月に三陸沿岸道路が県内全線で開通、五月には登米・気仙沼を舞台としたNHK朝ドラがスタート。状況が落ち着き、人、モノ、情報の往来が増えることを期待したいところです。多くの出会いと創意工夫によって、多彩で活力ある農業、魅力あふれる地域づくりが展開されるよう、普及センターは皆様とともに歩みを進めてまいります。

令和3年度のプロジェクト課題



1 いちごとねぎの販売拡大による経営の安定

【対象】シーサイドファーム波路上株式会社（気仙沼市）



いちごの栽培風景

①ねぎの安定生産・生産工程改善支援

施設・機械等の円滑利用で各種作業（播種、定植～収穫、出荷・調製等）を効率化し、収量・品質と収益の向上を図るため、作付計画作成、適期作業、雑草・病害虫防除指導とおして作業管理を支援します。

②いちごの安定生産・生産工程改善支援

生育調査の実施、親株管理・病害虫防除・肥培管理等の栽培指導を行います。また、先進的経営体との情報交換や会社内の定例会を実施し、随時課題・改善点の把握と対策の立案・実施を重ねることで、生産・販売拡大と管理運営の適正化を支援します。



2 市場等ニーズに応じた花き・花木生産による経営発展

【対象】株式会社南三陸Pine Pro（南三陸町）



①経営発展ロードマップの策定支援

経営の発展・継続に向けて、今後の生産計画や出荷体制整備、後継者確保や経営継承までを見据えた、ロードマップ（経営ビジョン）の策定を支援します。

②クロマツの生産安定支援

地域に適した枝もの用クロマツの栽培技術やニーズに合わせた出荷規格及び出荷調製方法を検討し、生産安定に向けた支援を行います。

③きくの生産安定支援

品種比較や露地電照栽培試験を実施し、8月盆や9月彼岸の需要期に確実に出荷するための開花調整技術等の習得を支援します。



関係機関によるクロマツの栽培状況確認



3 持続的な地域営農の実現に向けた担い手の経営安定

【対象】田表機械利用組合（南三陸町）



組合員と地域住民での鳥獣被害対策会議

①将来ビジョン及び営農計画の作成支援

持続的な地域農業を実現するため、組合の将来ビジョンを策定し、計画的かつ安定した組織運営ができるよう支援します。

②栽培技術向上支援

組合の水稻や地域の担い手が取り組んでいる園芸作物の栽培管理技術の向上を目指し、安定した所得が得られるよう支援します。

③地域と連携した鳥獣対策取組支援

営農環境の維持と組合の安定的な経営のため、地域住民と連携した鳥獣被害防止対策を支援します。

1日単位で求人募集できるスマホアプリについて

農業マッチングアプリ「1日農業バイトdaywork（デイワーク）」は、鎌倉インダストリーズ株式会社が開発・運用し、人手を求める生産者と、仕事を探す求職者をマッチングするアプリです。令和元年に北海道で先行して活用され、現在全国に展開しており、宮城県内でも既にアプリに登録し、野菜の出荷調製等で人手を確保できた農家の方もいます。

「1日農業バイトdaywork」は、
1日単位から募集可、利用料無料など、
気軽に利用できるため、

- 副業として仕事の休みの日に手伝ってくれる
- 10代後半～40代という若い方が手伝ってくれる
- 片道1時間くらいであれば問題なく駆けつけてくれる（週末のドライブ気分）

と、人を頼りに手伝ってくれる人を探したり、ハローワークに求人を出したりする場合とは別の新しい層の方々が来てくれるようです。

興味のある方は、別紙の生産者向けリーフレットまたはホームページ (<https://day.work/>) を御覧ください。

斑点米カメムシ類対策・防除について

令和2年度は斑点米カメムシ類の発生量は平年並でしたが、管内の斑点米混入による落等被害は平年より多く見られました。

発生源・誘引源となる畦畔や水田内の雑草を適切に管理することで発生量を減らし、適期防除による被害低減に努めましょう。

→**薬剤防除は、水稻の「穂揃期」と「その7～10日後」の2回防除が基本です。**

斑点米カメムシ類の発生動向・対策については、病害虫防除所が提供する「発生予察情報」や下記Webサイト等も参考にしてください。

Webサイト「斑点米カメムシ類の発生状況と防除対策」（宮城県病害虫防除所）
URL: <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/lib-kamemusi-top.html>



▲イヌホタルイにとまるアカスジカスミカメ



▲斑点米の例
(写真は古川農業試験場提供)

農業法人の紹介

南三陸ワイナリー株式会社

設立：平成31年2月8日

代表取締役 佐々木 道彦 氏

概要：醸造用ぶどうの栽培からワイン醸造までを南三陸町で行っています。他産業との連携による多角的な産業振興を目的に、平成



29年に南三陸町で「南三陸ワインプロジェクト」がスタートしました。本事業の推進を担う地域おこし協力隊の募集により、平成31年に佐々木氏が着任しました。

現在は、南三陸町入谷地区及び田束山のほ場で合計約2.2ha、約3,700本の樹を栽培しています。令和2年10月7日には、醸造棟、ショップ棟、展望テラスを設けた町内初のワイナリー施設を南三陸町志津川にオープンしました。また、令和3年には入谷地区で収穫した醸造用ブドウ「シャルドネ」を使用して醸造したワインを商品化し、地元産第1号を販売することができました。

南三陸ワイナリー株式会社は、ワインの醸造のほか、南三陸産りんごを使用したシードルも製造・販売しています。

